

女子ソフト、日中は介護職

収束願い仕事も全力

戸田中央総合病院・水戸

光を信じて アスリートは今

⑩

切。でも秋にはソフトボールができる環境が整ってほしい。ソフトボール日本リーグ女子1部の戸田中央総合病院メディックスの水戸久瑠実(22)は、

「那須塩原市出身」は、ウィルスの早期収束と9月のリーグ開幕を願っている。

白鷗大足利高卒業後、「トップレベルでやりたい」と大学を経ずに実業

団チームに加入。2018年から遊撃手のレギュラーに定着すると、5年目の今季は副主将に就任した。

持味は守備範囲の広さと強肩。一方で昨季は打率2割1分に終わっただけに、「目標は打率3割とベストナイン。ここで手を抜くと必ず後に響く」と小技を含めた打撃力アップを課題に挙げる。現在はチームの練習施設などでトレーニングに汗を流す。

日中は活動拠点の埼玉県戸田市内にある特別養護老人ホームに勤務。日常的に口腔ケアをするなど利用者との距離が近く、マスクや目の保護シールド着用、アルコール

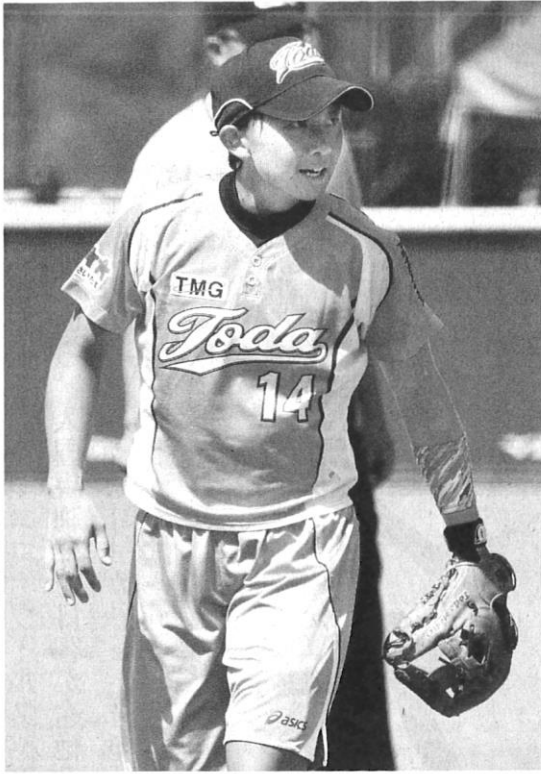
消毒などは欠かせない。それでも「入所者に気持ちよく生活してほしい」と丁寧な対応に心を砕く。

苦境に直面するチームへ支援の輪も広がり始めた。日本女子リーグ機構は、会員制交流サイト(SNS)で加盟各チームの応援メッセージを動画配信。ホンダで担当した蟹沢夏帆(25)は「同じ競技の仲間が頑張っている。自分たちの行動で

少しでも医療現場を支えられれば」と思いを吐露。水戸も「各チームとも苦しい中でありたい」と心遣いに感謝を示す。

9月に予定されるリーグ戦の開幕に向け、「仕事にもプレーにも全力を注ぎたい」。自らの置かれた環境をしっかりと見詰めるながら、理想の姿を目指して一歩一歩進んでいく。

(柴山英紀
随時掲載)



副主将としてチームをけん引する戸田中央総合病院の水戸

医療機関が母体のチームに籍を置き、介護の仕事に携わる。新型コロナウイルスの影には人一倍敏感だ。「今は感染拡大防止の意識が何より大